

週間展望・回顧(ドル、ユーロ、円)

September 10, 2021

## FOMC 前の米 8 月インフレ率に注目

- ◆ドル円、21-22 日の米連邦公開市場委員会 (FOMC) 前の米 8 月インフレ率に注目
- ◆米 8 月小売売上高、鉱工業生産、財政収支にも注意
- ◆ユーロドル、新型コロナウイルス感染状況やユーロ圏 7 月の鉱工業生産に注目

### 予想レンジ

ドル円 108.00-111.00 円  
ユーロドル 1.1600-1.2000 ドル

### 9 月 13 日週の展望

ドル円は、21-22 日の米連邦公開市場委員会 (FOMC) を控えて動きづらい展開の中、米国 8 月のインフレ率や 8・9 月の景況感指標を見極めていくことになる。13 日に発表される米国 8 月の財政収支では、連邦債務上限が引き上げられていない状況の下、過去最大規模の財政赤字への警戒感が高まりつつある。過去最大を記録した 2020 会計年度 (19 年 10 月~20 年 9 月) の財政赤字は 3 兆 1319 億ドルだったが、8 月までの赤字は 3 兆 0073 億ドルだった。今年度の 7 月までの赤字は、2 兆 5400 億ドルとなっており、8 月の財政赤字に注目している。連邦債務上限に関しては、イエレン米財務長官が「手元資金のやり繰りを巡って財務省が行っている臨時措置がいつまで継続するかは分からない」として議会に改めて対応を要請した。しかし、ペロシ米下院議長は、28 兆 5000 億ドルの債務上限を引き上げる必要があるとしながらも、3 兆 5000 億ドル規模の歳出法案に債務上限引き上げに関する条項を盛り込まない方針を示している。さらに、民主党中道派のマンチン上院議員が歳出法案を見直すべきと主張しており、上院は民主党 50 議席、共和党 50 議席と拮抗していることで、マンチン上院議員が造反した場合、法案成立が難航する可能性が高まるため、マンチン上院議員の発言に注目していくことになる。

また、14 日に発表される米国 8 月消費者物価指数では、6 月と 7 月の前年比+5.4%から低下して、パウエル FRB 議長の「インフレ高進は一時的」との見解を裏付けるのか、それとも上昇して、FOMC での年内テーパリング開始観測を高めるのか注意したい。米国 8 月の小売売上高、鉱工業生産、9 月の NY 連銀景況指数、フィラデルフィア連銀景況指数、ミシガン大学消費者信頼感指数でも、新型コロナウイルスのデルタ株感染再拡大を受けた景況感に要注目となる。

ユーロドルは、欧州中央銀行 (ECB) 理事会でパンデミック緊急購入プログラム (PEPP) の買い入れ規模縮小が決定されたことで底堅い展開が予想される。しかし、ラガルド ECB 総裁が「PEPP 購入ペース減速はテーパリングではなく、微調整」と述べたことで、上値は限定的だと予想される。新型コロナウイルスのデルタ株の感染拡大の状況を見極めつつ、ユーロ圏 7 月の鉱工業生産などのネガティブサプライズには警戒が必要だ。また、26 日の独連邦議会選挙に向けて、メルケル首相のキリスト教民主・社会同盟の支持率が 20%を割り込んでおり、続報に注意したい。

### 9 月 6 日週の回顧

ドル円は、週中に 110.45 円まで上昇したものの、109.62 円まで下落した。米 10 年債利回りが、9 月 FOMC でテーパリング開始が協議されるとの思惑から 1.38%台まで上昇した後に 1.28%台まで反落したことで、上値が重い展開となった。ユーロドルは、ECB 理事会で政策金利が据え置かれ、「パンデミック緊急資産購入プログラム (PEPP) のペース減速」が決定されたものの、ラガルド ECB 総裁が「テーパリングではなく、微調整を行う」と発言したこともあり、1.1886 ドルから 1.1802 ドルまで下落した。ユーロ円も、130.70 円から 129.67 円まで下落した。(了)